

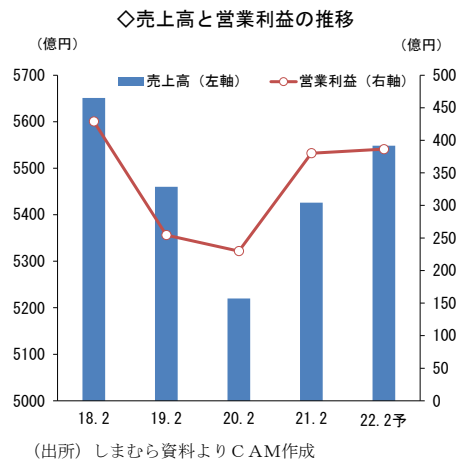
企業ニュース しまむら

(東証1部: 8227) <https://www.shimamura.gr.jp/>

作成者: 高見澤晶子

ファッションセンターしまむらを全国展開

「ファッションセンターしまむら」を中心に衣料品専門店を全国展開している。21.2期末のグループ店舗数は2,199店、うち、しまむら業態は1,430店で売上高構成比は76%。21.2期は巣ごもり需要拡大の寄与に加え、PB（自社開発ブランド）、JB（サプライヤーとの共同開発ブランド）の展開強化、売れ筋商品の短期追加生産を活用した在庫の適正化と値引き販売抑制といった取り組みが奏功し、大幅な利益改善となった。22.2期は巣ごもり需要が一巡しようが、各種施策の効果で業績改善が続こう。2021～2023年度の中期経営計画では国内売上高5,950億円（21.2期は5,366億円）、国内営業利益493億円（同381億円）を最終年度の目標に据え、過去最高の更新を目指す。



売上高、営業利益ともに第1四半期の過去最高更新

22.2期・第1四半期(2月21日-5月20日)の連結業績は、売上高が1,425億円、前年同期比33%増、営業利益が130億円、同143億円増(前年同期は13億円の赤字)。第1四半期は売上高で計画比5%強、営業利益で同5割上振れて推移。売上高、営業利益ともに第1四半期の過去最高を更新した。緊急事態宣言再発令による店舗営業への影響があったものの、PBやJBの展開拡大やキャラクター商品など企画品のタイムリーな投入が既存店売上高に寄与した。利益面では在庫の適正化による値引き販売の大幅削減、人件費や広告宣伝費の抑制が寄与した。

22.2期の通期会社計画は、売上高が5,548億円、前期比2%増、営業利益が386億円、同2%増。第2四半期以降は前年の販売好調による反動減が想定されるため計画を据え置いた。しまむら業態の6月既存店売上高は前年同月比8%減となったものの、前々年同月比では18%増と順調で会社想定も上回っている模様、計画上振れの可能性が高まる。しまむら業態ではこれまでの取り組みを継続・強化、その他の業態でも同様の施策を積極的に導入することで利益成長を目指す。

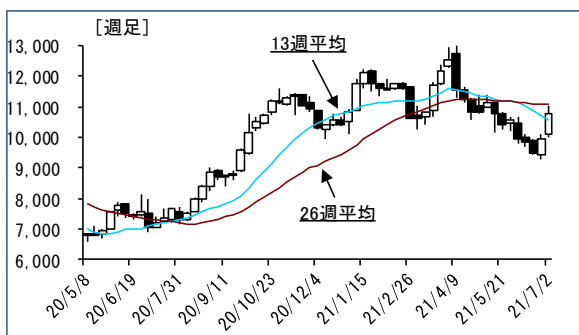
[株価動向・投資判断]

利益成長を重視した取り組みが奏功し、収益力が向上している点を評価したい。中長期的な業績拡大と、それに伴う株価の上昇が期待できよう。

<8227 しまむら 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.2	521,982 (▲4)	22,985 (▲10)	23,855 (▲9)	13,125 (▲18)	357.2	200.00
21.2	542,608 (▲4)	38,026 (▲65)	39,404 (▲65)	26,163 (▲99)	711.9	220.00
22.2 予	554,837 (▲2)	38,646 (▲2)	39,594 (▲0)	26,277 (▲0)	715.0	220.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/7/2)	10,790 円
年初来高値 (高値日)	12,980 円 (21/4/5)
同 安値 (安値日)	9,260 円 (21/6/21)
予想 P E R (22.2 予)	15.1 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	10,582.7 円
P B R	1.02 倍
予想配当利回り	2.04 %
(1株当たり配当金年220.00円)	
R O E (21.2)	7.0 %
発行済み株式数	3,691 万株